

令和6年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和6年7月31日（水） 10時～12時

場 所： すばるホール4F 会議室（旧秀月の間）

委 員：出席者13名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）、友田 研也、新里 恵美、溝口 俊則、
喜多 忠、廣崎 祥子、加茂 賢一、松本 新、大山 美里、今西 佳子、
品田 忠司、森木 和幸

欠席者4名

吉村 明、小野 達也、市川 智久、占部 訓司

事 務 局：4名

【富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室】

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、
小川 公也（副主任）

2名（コンサルタント）

【特定非営利活動法人きんきうえぶ】 寺田 誠、妹尾 美千代

会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）：0名

傍 聴 人：0名

会議次第：1. 開会

2. 案件

（1）委員紹介

（2）会長・副会長の選任について

（3）金剛地区再生指針の進捗について（令和5年度）

（4）金剛地区再生指針の取組予定について（令和6年度）

①まちづくり会議・運営会議の運営について

②各部会・プロジェクト等の取組について

③市が進める取組について

（5）その他

3. その他

4. 閉会

開催形態： 公開

会 議 録： 全文筆記

1. 開会

(事務局：塚本)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等
- ・資料の確認

2. 委員紹介、会長及び副会長の選出

(事務局：塚本)

- ・委員紹介
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告
- ・設置要綱第4条第1項により、会長及び副会長の選出
- ・会長は増田委員、副会長は中井委員が就任
- ・会長就任のご挨拶

(増田会長)

前期に引き続きまして、会長に就任しました。先日フォーラムが行われましたけれども、やはりまちが動いているということが大きな力になりますので、この動きを止めないように皆さん方の協力を得てやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 議事

改めましておはようございます。11時半を目途に議論を進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次第に基づきまして、2. 案件(2)まで終わります(5)その他までありますが、順次進めていきたいと思っております。まず(3)金剛地区再生指針の進捗について、令和5年度の進捗状況について、説明のほどよろしくお願いいたします。

(事務局：小川)

事務局より資料2-1「金剛地区再生指針の進捗について」について説明。

A3資料2-2の詳細資料については、各自でご確認いただきまして、お気づきの点などございましたら、個別に事務局まで連絡いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(増田会長)

ありがとうございました。赤で新規事業が記載されております。何かお気づきの点、あるいはこういう点が抜けてないかというご指摘、あるいはご質問ございますでしょうか。いかがでしょうか。はい、友田委員。

(友田委員)

空き家活用なんですけども、やっぱり富田林市では消滅可能性都市にもなってるじゃないですか。

若者も流出してますよというような、若者向けな住宅をどういう風に供給していくのかっていうところで、URの賃貸住宅の建て替えが始まるわけでもないし、どんどん新規開発をするわけにもいかないんで、空き家活用っていうのはわりと重要になってくると思うんですよ。

この表見ても成約件数1件、登録件数20件とかね、ものすごい小さい数字になってるんで、あとここについてはもう少しどうにかして積極的に取り組むような方策を考えた方がいいと思うんですよ。金剛地域とか富田林地域の建築事務所の方々と連携するとか不動産会社と連携するとか、そういったところと会議をしてみるとか、どういう風に進めるのかっていうところを本腰入れて空き家の活用みたいなものに取り組んでいただきたいなと思います。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。事務局何かご答弁ございますか。はい、森木委員。

(森木委員)

友田委員ありがとうございます。友田委員がおっしゃるように本市といたしましても、空き家というのはより重要な課題となっております。空き家を減らしていくのは重要なんですけども、空き家を解消していくということも重要だと思っております。来月になるのですが、空き家対策協議会という組織をもっておりまして、その中で委員の皆さんの意見を聞きながら、進めていきたいと思っております。

また、今も空き家バンクにはあまり登録がないんですけども、できるだけ登録してもらえるような方策として登録をいただいただけでも補助が出るという方針でやっておりますので、協議会の意見を踏まえながら、進めてまいりたいと思っております。

(増田会長)

よろしいでしょうかね。これはマッチングサイトか何かで情報発信されてるんですかね。

(森木委員)

件数は20件はないと思うんですけど、市のウェブサイトにも載ってますし、要はお互い借りたい方と貸したい方が、組んでいくような方法をとっているんですけど、なかなか件数も上がってないような状況でございます。

(事務局：塚本)

20件というのは登録事業者が20件ということです。

(増田会長)

マッチングサイトみたいなものが、非常に有用で、中間支援団体みたいなところがマッチングする方が動きがいいんだろうと思うんですけどね。

あと空き室の方はいかがでしょう。本日URからも委員が来られてますけども、若者向けに改装することによって賃貸を有効に活用していくってことはあるんでしょうか。

(加茂委員)

URの加茂でございます。URにつきましては、以前から資料に記載のあるようなリノベーションは全国的にも展開しております。引き続き、継続して取り組んでまいります。最後になるんですけれども、施設街区の広場や屋外空間のような空間づくりについて、子育て層の方とかにも魅力を持ってもらえるように引き続きURとしても取り組んでまいりたいと思っております。

(増田会長)

わかりました。ありがとうございます。はい、新里委員。

(新里委員)

地域の連携によるサービスの支え合いの展開のところで、虹いろサロンということで、私たち社教の施設がしっかり整えていただいて、地域住民のボランティアでやってるんですけど、一切載ってないのは残念ですけども、月に350人、400人近い人たちが実際に利用しておりますのでね、ぜひその中身も入れてほしいと思います。

(事務局：塚本)

資料2-2の方にはたくさん載せさせていただいております。

(増田会長)

ありがとうございます。他いかがでしょう。いつも出る話なんですけども、地域にはいろんな活動があって、それがやっぱりここにうまく集約されていることが大事なんですけども、やはりまちづくり会議であり、この推進協議会、それ以外の活動もたくさんありますので、うまくフォローアップできるよう、よろしくお願いいたします。はい、新里委員。

(新里委員)

伏山台校区福祉委員会という活動をやっております。サロン活動をやっております。地域ってところでURの集会所を活用したいなって考えているんですけども、ちょっとね、トイレが和式で高齢者の人たちの迎えがね、ちょっとできないみたいなのところがありまして、もし可能であれば、その辺のちょっと設備がよかったら、もっと活用できるかなと思うんですけども。よろしくお願いいたします。

(増田会長)

そうですね。今はもう和式を使う人はほとんどいてないですもんね。身体が動かしにくくなると、使いづらいですもんね。はい、ありがとうございます。いかがでしょう。よろしいでしょうか。総合力というものが非常に大事だと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に(4)の令和6年度の金剛地区再生指針の取組予定について、①まちづくり会議・運営会議の運営についてから③市が進める取組についてまで、結構たくさんな情報がありますけれども、一括で順次説明いただいて、最後に意見交換をしたいと思っておりますので前から順によろしくお願いいたします。

(事務局：寺田)

資料３－①「まちづくり会議・運営会議の運営について」について説明

(廣崎委員)

資料３－②－１「各部会・プロジェクト等の取組について（わっく Café）」について説明

(友田委員)

資料３－②－２「寺池公園等を活かしたまちづくりの会」について説明

(事務局：寺田)

資料３－②－３「各部会・プロジェクト等の取組について（金剛マルシェ）」について説明

(事務局：妹尾)

資料３－②－４「∞KONROOM」について説明

(事務局：小川)

資料３－③－１「市が進める取組について（大学連携）」について説明

資料３－③－２「市が進める取組について（バーベキュー社会実験イベント）」について説明

(事務局：竹川)

資料３－③－３「市が進める取組について（ウォーカーブル）」について説明

(増田会長)

ありがとうございます。けっこうバラエティに富んだ活動が動いておりますけれども、一括してご説明いただきました。前から順次、少し意見交換を進めて参りたいと思います。

まちづくり会議の運営について何かお気づきになられたことございますでしょうか。

(友田委員)

先日、フォーラムを開催していただいたじゃないですか。我々もまちづくり活動をする中で目的別チームを作ってやってるんですけども、地縁的な自治会との連携ってやっぱりまちを広めていくためにはとても重要なんです。金剛地区っていうのは、自治会長は輪番制なんですけども、それで良くて、毎年毎年こういうフォーラムを開催することで、自治会の新しい方にも継続して伝わるような仕組みを築くことにより、自治会と我々のような活動が連携できるようなネットワークが出来ていくことが重要だと思いますので、そういうことに取り組んでいただけたらと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。自治会を巻き込もうと思ったときには、少し行政の声かけも必要だと思うので、その辺りうまくやっていただいて、地域活動のテーマ型活動と地縁型活動をどう一体化していくのか、あるいはどう情報共有していくのかっていうところで、どう活動連携するかっていうところよりもまずはどう情報共有していくのかっていうことが大事だと思うのでよろしくお願いします。他はいかがでしょうか。

(新里委員)

今の関連で、校区交流会議っていうのが、市長の肝いりの施策としてございます。そこにもやは

り、町会がなかなか入ってこないっていうようなものと同じような問題が起きてるんですね。私は校区交流会議は、一人一人の幸せを目指して活動しているわけです。金剛地区において、校区交流会議が何個かあると思うんですけども、やはりそこも含めてまちづくりの中に入っていただければ、少なくともそこに入っている町会の人たちは入ってくるのではないかと思いますので、校区交流会議は別物として扱うのではなくて、やっぱり横の連携を取るっていうのはいかがなものかと思います。

（増田会長）

これ非常に難しい話なんですけども、色んな所で重層的に物事が動いていってるんですね。あるいは多層的に、どっかで一度整理をしておいて、どうそれが連携できるのかと、何個かは連携発生しているものもある。例えば、∞KONROOM と大学連携が連携しているとかの話の中で、新里委員からもご指摘があった立体的にどのような捉え方をすれば良いのか、というところを一度トライして整理してみるということもひとつかもしれないですね。

（中井副会長）

今増田会長からお話があったとおりなんですけども、再生指針に基づいていろんな活動が行われて4年目くらいなんですけども、今までは個別に個々の活動として動いていた。

それが昨年あたりからコラボができるようになってきたっていうのが、今の現状かなって思います。

そういう意味で、私もわっくカフェに関わっていますけども、最近はマルシェとコラボしてやっておりまして、これをやることによって、参加者が非常に多くなっている。今はマルシェとだけやっていて、今後は∞KONROOM とやる予定なんですけども、色んな団体とコラボすることにより活動の輪が広がって行って、一番のネックとなっている活動者の不足の改善にもつながるのではないかなって思っております。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。もうひとつ整理するときに、行政の縦割りというのは、これはいつまでたっても解消できないですね。それは解消しようとせずに、縦割りとしてどういうことをやっているかということを、連携させる役割はまちづくり会議であったり、プラットフォームなんですね。

地域で総合化していくことが非常に重要なので、いったいどういうことが動いているかということを一度整理していくことが重要ですね。どうしたらうまくつなげることができるのかということ一度考えてみるのが重要で、まちづくり会議、ウォークアブル、寺池公園を活かしたまちづくりの会といった、いろんなところにプラットフォームができていますので、1本化する必要はないですが、どのように機能しているかということを一度整理する必要があると思います。

その次、わっくカフェはいかがでしょうか。これは先ほどもお話の中でありましたように、オーナー交流会の中で、連携が図られていくということは重要なことで、やっとコロナ禍を脱したので、そのあたりお互いに協力したらワンセッションやっていけるということはあるので、そのあたりをぜひともやっていただきたい。

この点について、お気づきの点、こういう風にやったらもっとうまくいくという意見ございます

か。あとは日替わりオーナーをされている方々について経営上のコンサルティングはされているのでしょうか。

（廣崎委員）

コンサルティングというのは、売上とかですか。

（増田会長）

価格設定、情報の提供の仕方とか、経営コンサルティング的にこういう風に運営したら、週1回ではなくて、3日間くらい出店できるのではないかと、あるいは売り上げをもうちょっと上げられるのではないかと、そういう経営支援というようなことはされていますか。

（廣崎委員）

特別にプログラム化しているとか、この日に来たら支援しますよっていうことをやっているわけではないのですが、私がオーナーをしている時にお客さんで来られて、今度オープンしようと思っているのですがどんな感じですかと、自分がやっていて、収入が上がるというようなこと、具体的にいえば、ドリンクをセットで提供した方が良いというアドバイスや、あとはLINEの方に事前にチラシを送っていただいたら、事前にわっくカフェで掲示するといった小さなサポートはさせていただいています。

（増田会長）

多分そういうことは小さなサポートではなくて、オーナーを増やしていったり、出店回数を増やしていったりするの非常に重要で、そのあたりのノウハウみたいなものを交流会の中でもされたらおもしろいかもしれないですね。

（中井副会長）

私も関わっている関係で、オーナーさんによってお客様の数が違って、この違いは何かなっているところで、やはり宣伝の違いだと思うんです。今日こんなことをやっていますよっていうことを広く周知できているかっていう違いでして、例えば、来週はこんなことをやりますよっていう直近での情報発信を、フェイスブック等を用いてやる必要があるだと思っております。

（増田会長）

それもひとつの方法で、どういうツールを使って情報発信を行うのか。インスタグラム等、いろいろあると思いますので、情報発信講習会みたいなものもおもしろいかもしれないですね。

その辺りは、寺田さんなんかでひとつはまちづくりの情報発信の講習会とか、先ほども言った経営コンサルタント的な講習会とか、あるいはファンドレイジングみたいな形での資金を獲得できるような講習会とか、テーマを決めた講習会をやっていただけたというのも、色んな活動で課題が出てくると、共通課題として、今言ったような講習会ができると良いと思う。

（事務局：寺田）

今お話を聞いていて、ひとつ思ったことが、阪南大学が定期的にラーメンを出店されていて、びっくりしたんですけども、毎回ラーメンが完売しているんですね。わくわくって別にラーメン屋さんではないので、ラーメンを食べたい人が前を通過してふらっとラーメンを食べに来る店じゃないんですね。そこで、集客をどうやっているんですかと聞いたところ、チラシを作ってポスティングもしていると言っていたので、そういうことをすれば集客がついてくるといった事例をまとめてオーナーさんに共有したり、もし可能であれば阪南大学の学生さんより話をしてもらおう場を作ったりしてはどうかと思っておりました。

（増田会長）

わくわくカフェに関してはよろしいでしょうか。

その次の寺池公園に関して何かございますか。

（友田委員）

リーフレットの説明を忘れていて、今こういったリーフレットを作っていて、我々として今後寺池公園がこうあってほしいといった、裏面なんかにはパースを入れて作らせてもらって、我々がこうあってほしい、これから実現していくんですよっていうことを、地域の方々、自治会の全戸に配布していきたいって思っていて、これ中を見ますと、水辺を眺められる空間作りとパラソルカフェに取り組んでいきます、スケジュールはこうですという形で、またこれで仲間を募っていくという形をどんどんとっていったって、自治会を巻き込んだ形でしていきたいと思っていますので、参考にお配りさせていただきました。

（増田会長）

ほか、活動での安全確保みたいな話が重要で、活動をする際には、はじめに参加者も含めて安全講習を実施することが大事であるのと、もうひとつはプレーパークとかをやる時にみんなが安全管理を共有していると、しんどいと思います。そこで、私がやっているところの例を挙げると、その実施する日は安全管理の専任者を置くんですね。その人はいろんなことをしない。ずっと外からみんながやっている活動を観察するだけにしておくことで、みんなで安全管理しているよりもうまくいくため、そういうやり方も一度考えていただければ、安全確保しやすいのではないかと思います。

（中井副会長）

水辺が見える活動っていうのは、友田委員から説明があったように水利との連携をやっているんですけども、この公園は寺池台1丁目、5丁目、4丁目、それと狭山、金剛1丁目が町会としては関係しております。ただ現実には町会で参加しているのは寺池台1丁目だけなんですね。他の町会にも活動に参加してもらおうのはなかなか難しいところがありまして、理解はしてもらえんのだらうと思いますけれども、町会間のつながりっていうのがあまりなくて、これをいかにつながりがあるようにできるかっていうのが今後の課題だと考えています。

（増田会長）

先ほどございましたように、テーマ型活動と地縁型自治会との活動をどうつなげるか、しんどい

話ですけども、例えば寺池公園で活動するときに、自治会長さんにオブザーバー参加してもらおうとか、できたら実行委員会のメンバーに入ってもらおうとか、なんかそんな形でトライいただいたら、テーマ型活動と自治会とでひとつの実行会議ができましたというような事例が出てくると、おもしろいと思うんですけどもね。

（友田委員）

一応我々が会を作った時に、隣接自治会からは少なくとも2名出してくださいねという形にしている、今言われたように寺池台1丁目は2名だしてくれている。金剛自治会も自治会長、副会長を1名ずつ出していて、あと5丁目はまだ入っていないですけども、そういう形で自治会をかましているところはそれが広まって伝わるんですよ。やっぱりそういった関係を築いていきたいので、自治会との連携を広げていきたいと思いますという話をしているんですけども、ネットワークがとても大事ですし、入っていただくということも大事やし、当事者意識持ってもらうことも大事やし、広めてもらうことも大事なので、ぜひともそういう形をとっていききたいと思います。

（増田会長）

ありがとうございます。はい、新里委員。

（新里委員）

一緒に動いているんですけども、かなり労力のいる力仕事が多いんですね。だから余計に入っていないという問題があるんです。できればこの会の皆さまもぜひ参加していただければと思います。よろしくお願いします。

（増田会長）

はい、よろしいでしょうかね。

その次が金剛マルシェについて何かお気づきの点ございますでしょうか。かなり色々な意味で勉強されていて、販売が順調に行っているとか、農家の方々も時間を早めると売れそうとか、そのようなことが大事で、進んでいっているかと思いますが、何かございますでしょうかね。

（新里委員）

以前はマルシェにも関わっていたんですけども、今は撤退したんですけども、トイレの問題があったと思うんですけども、その辺は改善されているのでしょうか。

（事務局：寺田）

トイレに関してはマルシェっていうより商店街の設えの方の問題となっていたんですけど、今はもともと商店街の方が管理されていたトイレをURさんが管理するようになったことで、来場者の方でも使えるようになってると思います。中井副会長より詳細をお願いします。

（中井副会長）

トイレにつきましては商店街とURさんとの間に経緯があります。去年までは商店街で管理する

ことになっておりまして、今年からはURさんに管理していただけることになっています。トイレは今までは和式だったんですけども、それを洋式に変えていただいて、平日はURさんが9時に空けて、17時に閉めることになっています。だから夜は使えない。土曜日は14時に閉まります。

ただし、イベント時は延長して開けてもらってまして、夕方17時か18時まで開けてもらっています。わっくの夜の部をやると、21時まで空いてまして、その間もトイレが使えるようにURさんと交渉させてもらいました。維持管理の問題と夜は防犯の問題がありまして、店の裏にトイレがあって、人目につかないところにあるので、今後そのあたりをどうしていくかということがあるんですけども、とりあえずは今の形態で運営していくことができるのではないかと考えております。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。少しずつ協力関係が熟成していくといいですね。

その次が∞KONROOMについての話ですかね。いかがでしょうか。ご意見ございますでしょうか。

（友田委員）

説明にあった託児付きおひとりさまタイムってあるじゃないですか。これ大変いいなって思っているね。お子さんを預けて親御さんの自由な時間を作るっていうことがいい形かなって思っているので、これを今後ね、青少年スポーツホールの建て替えを行うときに、こういう仕組みが入りこめるようなとか、コミュニティビジネスが起こせるようなとかを視野に入れながら、こういうことがまちに定着してしっかり仕組みとして出来上がったら、やっぱりそれについては子育て世代の方々が喜ぶと思うので、やっぱその機能を育てていただきたいなと思います。いい活動だと思っています。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。まちづくり会議でプレイヤーを発掘しようとか、育てていこうというのはなかなかしんどそうなので、できたらこういうところを各々で新たな活動でプレイヤーが出てくると、それをまちづくり会議のメンバーにつなげていくという、そんなつながりができると、まちづくり会議でプレイヤーがいらないということが解消すると思うんですよね。その辺り、寺田さんいかがでしょうかね。

（事務局：寺田）

今お話しが出てきたおひとりさまタイムであつたりとか、あとはSNS活用のセミナーとかもターゲット層は主婦の方で参加された方もやっぱり子育てがちょっと落ち着いた方っていう方が多かったんですけども、こういったセミナーであつたり、コワーキングであつたりとか、まずは∞KONROOMとつながってもらってということが、今やっている段階かなと。

今ここでおひとりさまタイムに参加してもらって、次のステップでSNS活用のセミナーに参加してみようかなっていう方もいらっしゃると思いますので、この次にまちづくりの方へいってもらおうっていう感じで、今は段階的に考えていて、いきなりここに来た人にまちづくり会議ありますよって風に紹介するよりかは、まずは∞KONROOMでつながってもらって、ここでつながったら、次はまちづくり会議であつたり、地域活動の方を紹介したり、マッチングしたりをしたいと考えています。

(増田会長)

今何でそんな話をするかという、∞KONROOM 中でのコラボみたいな、各活動のコラボもあるでしょうけど、今言ったまちづくり会議では4つほどの活動が動いていますので、そこでの連携みたいなやつは、まちづくり会議の中での連携の方がより可能性が高まるかなと思うので発言したっていう話と、もうひとつは子育て層の活動は今、まちづくり会議の中でないですね。それがひとつの大きな課題でもあるし、社会課題でもあるので、そのあたりも一足飛びにはいけないと思いますけど、まちづくり会議とつながれるといいですね。

他、∞KONROOM に関していかがでしょうか。

それでは市が進める取組についてということで大学連携に関して何かお気づきの点ございますでしょうか。

では、私の方から最近包括連携協定されたところなんですけども、学生にとっては発表会があるってことが非常に大事なんですよ。阪南大学にしても大阪大谷大学にしても、いったんどこかで発表会をやっていただけると、より学生にとって意味があるのかなと。

(事務局：小川)

はい、ありがとうございます。発表会は年間で2回予定しておりまして、中間発表会としては10月頃に、成果発表会を年度末となる2、3月頃に開催する予定です。

(増田会長)

あともうひとつは学生に何らかの賞状を市長名で出すっていうのはいかがでしょうか。就職するときに、社会活動をどう証明するかっていうところでエビデンスがいるんですね。感謝状では駄目なんですよ。どちらかというと奨励賞的な話とか賞的な話の方が就職活動とか奨学金の返納なんかの話も点数があって、社会活動をどれぐらいしたかみたいなのがあって、点数化していくことによって、大学で奨学金の返納を半免除とか全額免除といった制度があるんです。学生にとってはそういうエビデンスもあるってことが非常に大事なんで、そのあたりも考えていただけるとありがたいです。

(事務局：塚本)

事務局の塚本でございます。今大学の中の地域連携や社会連携の部署にも枠組みに入ってもらっておりまして、そこで定期的にモニタリング会議を実施しております。本日増田先生よりご意見いただいた学生にとってメリットがあるっていうところで、何ができるのか、活動証明という形にするのかっていうところは、イメージがわいていないのですが、活動に参加されている学生さんにとってのメリットがそういった証明のようなものになるのであれば、そういったことも検討できると思いますので、一度そちらのモニタリング会議の議題として預かってみたいと思います。

(増田会長)

活動修了証みたいなものでもあると、学生にとっては実質的なメリットにもなりますということです。

(事務局：塚本)

分かりました。ありがとうございます。

(新里委員)

大学の方もネパールの方を対象に取り組まれたりしているんですけども、実際金剛で 400 から 500 人にまで増えたネパールの方たちが、今 50 人くらいに減ったという。噂の域ですけども、50 人に減ってもこのプログラムは続けられるのか。もうひとつは地域としたらなんでこんなに減ったのか、というところも情報として提供できるのであれば、聞きたいなと思います。

(事務局：塚本)

私の方から答えられるのが 1 点目のところで、実際に生活されておられる方が学生さんとお聞きしてましたけれども、実際にこのプログラムに参加しておられる方って団地にお住まいの方以外の方も、つながりみたいところで参加しておられます。多文化共生というのは大きな問題だと考えていますので、少なくとも今年度はこの取り組みをやるってということで、来年度以降については、毎年毎年各大学の方でプログラムを考えていただいておりますので、そのあたりは大学の方で判断していただくと考えております。

(溝口委員)

これは UR の責任もあるのかどうか知りませんが、昨年 8 月に第 1 陣としてネパール人が 120 名入居しました。これは日本語学校で留学するために来られたと、当初は転貸借契約する会社の条件として 6 か月は指定したところに入居しなければならないという条件があったようなんですが、今はその条件が外れている。今度はずいぶん減ったことに対して、UR の説明としては 3 つあり、1 つ目が交通の便ですね。学校が難波にあるんですね。その難波の学校に通うのにわざわざ金剛から通うための必要な時間と交通費がいる。それと、2 つ目が学生たちは、休みはほとんどアルバイトをすると。金剛地区ではアルバイトができる場所はそんなにない。どうしても難波周辺ということになる。3 つ目は住居の問題です。先ほども言いましたが、指定した住居に 6 か月入居という条件が外れて、今家賃がいくらかはっきりした情報が出ておりませんが、おそらく 5 万円弱の部屋に 3 人でシェアしていると。それを考えた場合にアルバイトをやっている難波周辺の、例えば、今宮あたりで 3 人シェアすれば UR の家賃より安く住めるという条件が 3 つ重なってこのところ激減している。今最終的には 50 人くらいと言われている。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。時間の方が 11 時 30 分に終わると言っておりましたけれども、ちょっと延びております。他いかがでしょうか。一点だけ、ウォーカブルのビジョン案について、この指針推進協議会やまちづくり会議で意見交換の機会をいただけるとありがたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

(友田委員)

ウォーカブルなんですけども、今ビジョンを作っていただいておりますけども、標題も金剛駅周辺のウォーカブルな空間づくりってなって、ビジョンを作成っていうのはあくまでも金剛地区全体のウォーカブルなまちづくりのビジョンがあって、その中でまずは社会実験的に第一段階としてこの金剛駅周辺やふれあい大通りを進めていくんですよ、みたいな形かなってふうに思っています。やっぱりウォーカブルなまちづくりって何かって言ったら、やっぱり多様化し、居心地が良いとかそういうまちにすることが色んな国の各々の人から選ばれる都市になっていくということで、そういうことを促進するためにウォーカブルなまちづくり全体を進めるんですよって話になってるんですよ。それでみんながまちを変えていきましょうって形になって、そこのふれあい大通りだけを変えていきましょうって話だけではなくて、選ばれる都市全体になりましょうっていうことなんです。

その後でプレイスメイキングの手法を使いますって言ってますけども、プレイスメイキングもエリアを考えたときに、少なくともそういった居心地の良い多様に使えるような空間、それを10か所くらい作りましょう。それを目的地にしましょう。その目的地を作ったうえで、その目的地の中に10か所くらいの居場所を作って、そこには各々10か所くらいのアクティビティがないといけないですよって形になるんで、今は駅前とふれあい大通りとピュア金剛跡地とか4か所くらいありますけども、地域全体でその資源を活用しながら、潜在力を引き出すようなことも考えて、どういう1か所を選び、目的地とし、それをいかに育てていくのかっていうビジョンがあって、それをどういう風につなげましょうっていう、広域的なエリアを考えてね、ビジョンを作り、その上で今年度は国の予算もあるからここの社会実験をするときに、こことこの目的地をどういう風に育てますか。社会実験はどうしようというような、ちゃんとビジョン全体を検討いただきたいなと思います。

それと、やっぱりビジョンができて、報告するんじゃないしに、やっぱり増田先生とかおられるんで、色んな策定の初期段階から出していって、どんどんアドバイスいただきながら、やっていただくっていうことが大事なことだと思っているんで、しっかり作っていただきたいなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。一応予定しておりました(4)は終了したいと思います。

その他、各委員からの話題提供の中でURさんから広場整備についてご報告いただくと事前に聞いております。よろしくお願ひしたいと思います。

(加茂委員)

時間もきておまして恐縮なんですけども、私の方からUR金剛団地の施設街区、金剛銀座街商店街の広場整備に関しまして簡単にご報告させていただきたいと思います。ちょっとお手元の方に資料がなくて、画面の方をご覧いただければと思います。7月20日のまちづくり会議の中でも、資料でご説明させていただいておりますので聞いてらっしゃいます方も多いと思いますけれども、お聞きいただければと思います。

今回の広場整備に関しましては、これまで自治会さんであったり、店舗会さん等にご相談しながら整備方針であったり、整備計画を検討してまいりまして、今回整備方針、整備計画がまと

まったところでございます。こちらの方が広場の整備方針なんですけれども、大きくは銀座街商店街を4つのエリアに分けて、それぞれの特徴に合わせた活用を想定しております。まず駅前に近い交差点側の赤く色付したピュア金剛跡のエリアに関しましては、まちへの顔づくりをするエリアというふうに位置付けて、様々な活動ができる場として、また魅力的で心地よい緑を感じられるような場づくりをしていきたいと思っております。それから住棟に囲まれております青く色付けしたエリアでございますけれども、こちらについては団地居住者さんの居場所として位置づけられて、ゆっくり過ごせる場として、またお子様方がですね、走り回れるようなそういったイメージをもった場としていきたいと思っております。それ以外に上の方とふれあい大通り側のオレンジ色のエリアですけれども、こちらについては、周辺の地域からの導入性を高めるエリアとして、ふと立ち寄っていただける場所、あるいはピロティなんかも有効に活用していきたいと考えております。最後に店舗側の店舗側に近い緑色のエリアにつきましては、店舗との関係性を作るエリアとして、商店との連携を渗み出したり、落ち着きを感じられるまちづくりをしていきたいと考えております。次のページをお願いします。小さくてわかりづらくて恐縮なんですけれども、これが整備図、企画図なんですけれども、先ほど申し上げました各エリアの整備方針に基づいて計画しているんですけれども、駅に近いピュア金剛跡については、けやきなんかを配置しながらですね、フラットな並木広場としてキッチンカーなんかを道路側からダイレクトにアクセスできるような配置となっております。それから住棟に囲まれた真ん中のエリアについてはお子さんの遊び空間として児童用の遊具なんかも設置していくような、そんな企画にしていきたいと考えております。最後にちょっと簡単なパースですけれども、これが金剛駅前から見たイメージパースがこちらです。先ほど申し上げましたように、まちの顔づくりとして、道路側から開かれた空間づくりを目指して、これから進めてまいりたいというふうに考えております。

計画、整備方針に関しましては、これまで自治会さんであったりとか、店舗会さんなんかにご協力いただきまして、いろいろご意見をいただきながら、固めてまいったものでございます。ご協力いただいた皆さまには、非常にありがとうございました。ご協力感謝申し上げます。今後はこの計画案をもとに設計、施工進めてまいります。

今回は整備をしたから終わりということではなくて、整備後にこれも自治会さんであったりとか、店舗会さんとも調整しながら、いかに住民の皆さん、市民の皆さんに使っていただけるような場にしていくのかっていうのは、引き続き考えておくべきひとつの課題かなとふうに認識しておりますので、そういったことも今後考えていきたいとURとしては思っております。簡単ではございますが、以上となります。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。何かお気づきの点ございますでしょうか。私の方から2、3お願いしたいと思うのが、ひとつは顔づくりですけれども、ここで色んな活動、使いこなすということが、先ほども最後にご発言されていまして、使いこなすための装置は準備されているのかどうかと、ひとつは電源ですね。ひとつはテントを張って強風で飛ばされるというのがあって、重しを置くようなやり方ではなくて、ちゃんとテントを止めるアンカーみたいなやつが広場の中に収納されているのかどうかとか、あとは音響ですね。もうひとつはテントっていうのは、きっちり大きなテントが張れるっていうのは天気の良い活動もできるっていうことなんです。

だから、テントが準備されているのかいないのかでとても違うんですよね、使い勝手が。

こういうところまで想定されているのか、あるいは、そういう検討をされた方がいいのではないかというようなことを今すぐお答えいただくというよりも、顔づくりというほんとにテーマなのか、むしろここは人々の活動があふれ出す空間ですよというような、子どもの遊び場の方ではなくて、このところですよ。

顔づくりというのはどちらかというと、静的なイメージなんですよ、ここはどちらかというと、動的にみんなが使いこなすということやと思うんです。ウォーカブルシティなんかでも、そうやって考えますとね、設備なんかも全部可動性を考えておかなくてはならないんです。けやきを植えてしまったら、もう動かせないので、例えば、神戸のフラワーロードは並木は全部動かせるようになってるんです。フェスティバルがすぐ開けるんです。だから、そういうふうな可変性とか可動性みたいなやつも後のイベントのやつで想定されて、設計されているのかどうかと、なんかそのあたりも使うというあるいは使いこなすという視点からの設備・装置、そのあたりのチェックはきっちり今後やっていただきたいなということやと思うんですけども。

（中井副会長）

これは1点だけ。かねがね要望はしていたんですけども、実現していないことのひとつとしてトイレがある。広場で遊ばせるってことであれば、トイレがいるんですけども、現在あるトイレは男性用の小便器が2つ、大便器が1つ、女性用は2つしかない。その公衆トイレで、ここでたくさん人を呼んでイベントができるか。そんなことURさん本気で考えてんのって、前から言ってるんですが、なかなか採用されてないので、そのへんのご要望をお願いしたいと思います。

（増田会長）

はい、どうぞ。

（溝口委員）

この際申し上げておきたいんですが、今加茂さんの方からピュア金剛跡地については、当面の間というひとつのくくりがあるんです。今先生がおっしゃったけやきの木についてもひとつの問題ではありますが、将来このフラットにしておく部分は固定的なものではなくて、アンケートをとりまして、その中で多いのは商業施設なんです。建物を建ててほしいと。これはね、これからフラットに整地した後、しばらくの間は公園的な活用方法があるにしても、どういうものを作っていくかっていうのは、例えば医療施設、商業施設、スーパーマーケット、関西スーパーだけではなくてって意見が一番多い。一番多いのは商業施設なんです。それにしてしまうかどうかというのはこれからの問題であって、ましてやそれをやるために、今先生がおっしゃたように固定的なものをしてしまうと、新しいものをつくるための機会がなかなかできないから、できるだけ可動的なものに留めておくというのが現時点です。

ですから、トイレの問題とかいうのはね、とりあえず問題あるにしても、商店街の協力も得て、わっくの横のトイレもとりあえずは活用できるようになったことも含めて、広場をフラットにしてほしい、トイレを新しくしてほしいと言った無茶なことは言わないでほしい。

(増田会長)

はい、他ございませんでしょうか。はいどうぞ。

(喜多委員)

これまでの話を聞いていて、高齢者は来ないんじゃないかと思います。極論ですけどね。高齢者はここで癒しを求めるとかね、休憩しようとかね、そういう風に思わないんじゃないかと思う説明だと思うんです。若い方とか、子どもさんにとってはいいと思いますよ。金剛団地には高齢者いっぱいいますからね。ここに行きたいと思うかなというような印象を持っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。色んな意見があって、お答えいただくというよりも、色んな形の意見があるので、少ししん酌いただきながらということかと思いますので。

(友田委員)

1点だけいいですかね。先ほどもね、ウォークアブルなまちづくりと言っていたけれども、当面こういった形になるのであれば、これは1つの目的地になるんですよ。高齢者の方々とかから色んな方々から利用されるので、むしろ高齢者が使いやすいようにするにはどういう風な形がいいんだろう。どういう空間の作り方がいいんだろうといった社会実験をむしろすべきでね。

そういった形で、やはり高齢者にも利用されるような空間に当面まだまだ建物を建てないっていうところの使い方の目的としてね。そこをご検討いただきたいですよ。やっぱりせっかくこういった空間を作るのであれば、利用されるように。周辺の方々は利用するんでしょうから、そういう方々のどういうニーズがあって、そして、そういう方々はどういう形になれば利用していただけるんだというところをきっちり考えていただいて、ここをデザインする。とても大事なことで、やっていただきたいですけどね。よろしくお願ひしたいと思います。

(増田会長)

たぶん暫定利用なので、いかに固定的にせずに、可変性なり可動性であることを背景に考えていくだろうと思うんですけどね。あまり固定的にしてしまうと、後の対応ができなくなるので、少しご検討いただければと思います。一応その他では、他にも事務局何かございましたでしょうか。

(新里委員)

富田林市が消滅都市っていうところで名前が挙がっておりますが、役所に行っても、消滅っていう言葉を使われることは一切ないです。だけれど、それは意識した形で活動はやっていくべきじゃないかと思って、金剛に関しては人口を増やす希望の星と思っているんですね。ということはやっぱり金剛再生指針ではその消滅都市を何とかするために、常に頭において動いていかなきゃいけないんじゃないかって私は思っているんですけども、会長いかがでしょうか。

(増田会長)

基本的に人口減少の中で維持するっていうところと、あとは子育て層が入ってくるかというところが大きな話だと思うんですね。そのあたりは先ほども出てましたように、空き家、空き室というのを具体的にどう戦略的に展開していくのかということが非常に重要な課題だと思います。そこをうまく使いこなせばある意味人口はひょっとしたら増える可能性はある。

はい、事務局。

(事務局：塚本)

配布しているプリントの説明がもれていましたので、ご説明させていただきます。市民公益活動チャレンジプライドというチラシの方を1枚配布してございます。市の方の制度のご紹介になるんですが、チラシの左下の方に補助金のメニューということで自由テーマ型、共同事業推進型、学生活動応援型、スタートアップ型っていうのがございます。裏面の方に、ざっくりした内容が書いていて、初動期20万円であったりとか、2年目15万円、3年目10万円みたいな形で、それぞれのテーマごとに補助率も約10分の9ということで大きな補助率を設定してございます。

本来は7月に1回目の募集をしまして、また追加の募集もあるとかなないとかという情報も聞いておりますので、今後何か活動をされる際に、資金面でご苦労されることがあれば、3年間限定の補助金ですが、こういったものもご活用いただいてということで情報提供させていただきます。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。まちづくり会議でのプレーヤーの発掘とかあるいは∞KONROOMで色んなプレーヤーが見えてきていますので、そういう方々が使えるような、全市的な話ですけども、ある枠組みの中で使えるうまく活用いただければいいんじゃないかと思います。少しの活動資金が最初にあるっていうのは非常に重要であると思います。

一応今日予定しておりました案件に関しましては、事務局すべて終わったという理解でよろしいでしょうか。

(事務局：小川)

はい、大丈夫です。

(増田会長)

予定より30分オーバーいたしましたけれども、意見交換は非常に重要だと思いますので、自分の活動だけではなくて、他の活動に対してもやはり色んな提案ができるというのが、交流会の重要なものですので、お許しいただければと思います。それではご協力ありがとうございました。事務局の方に進行をお返ししたいと思います。

(事務局)

はい。増田先生ありがとうございました。

本日は、金剛地区の再生・活性化について、活発なご議論とともに、アドバイス等をいただき

まして誠にありがとうございました。また、増田会長におかれましては、円滑に会議を進行していただきありがとうございました。

それでは、本日の会議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。